

東京都立大学教授・心理学
詫摩 武俊

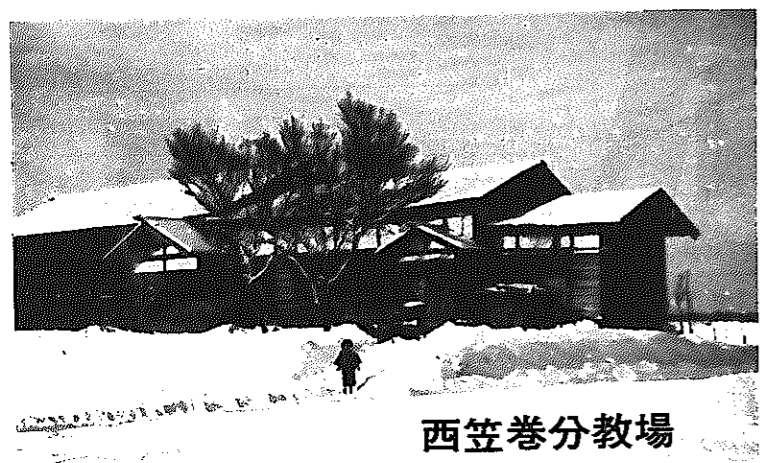
我が国の親の中には、来客の中にあつた折りなどに「いくつになっても毎日のように兄弟げんかをして困ります」とか、「テレビばかり見ていて全然勉強しないので、算数も国語も三しか取れないんですよ」ということを言う親がいます。ときには「小学校の二年生にも

心を縮めさせる言葉

なつて 昨日はおねしょをしたのですよ」などと言う親もいます。
来客に対して謙そんするといふ意味で言われる言葉でしょうが、そばで聞いている子どもの心を暗くし、い縮ませます。親の中にも自分が子どものときにこのようなことを言われて、恥ずかしい思いをした思い出を持っている人もいます。数学や国語の成績が仮に不振であっても、夜尿をしたのが事実であつた



んだんと卑屈になつて、投げやりな態度を示すようになります。親に対する態度だけでなく、他人に対する態度や、人生観にもそれは影響を与えます。
幼いときに親、特に母親に愛されて成長した人は、大人になつてからも心が安定して挫折感に強い人になると言われます。最近はその子どもを厳しくしかる人は少なくなくなり、怖い先生も減ってきましたが、仮にその人にどれほど悪口など言われても、親がその子を信頼しているという態度がたいせつなものです。子どもがよくないところはしからなくてはなりません。しかし子どもの全体を否定するような発言は慎んでほしいのです。



西笠巻分教場

ソリ道のあつた県道(鷲巻)

私の思い出
あの時(一)の場所

語る人
城島元一さん
(上鷲ノ木六十八歳)



西笠巻分教場(鷲巻小学校)二年生で西笠巻・引越・朝捲の一部の児童が、積雪量の多いとき使用された)の付属住宅に昭和二十四年から十五年間生活させてもらった。
歳末から降り出した雪が三学期が始まるまでに三十センチも積もつた。箱型のバスはストップ、現在のように各家庭にマイカーもトラックもなく、牛や馬が農耕に使われていた時代のことである。県道は砂利道で、雪や氷が付くと道幅の半分はソリ道として氷雪をそのまま残し、後半分はスコップやツルハシで氷雪を取り除くのである。除雪車などは一台もない。
引越から県道に出る丁字路まで、雪が降るとカンジキを履いて、コスキで除雪している小柄なおじいちゃんがおられた。鷲巻小・中に通う子どもたちのために道をつけていられたのが、住宅のガラス戸から見えた。奇特(感心)な人がいると近所の人に聞いたら、たぶん斎藤さんだろうと言っていた。家の前の道はその家の人たちが道をつける習慣があつたのに、このごろはどうなつてゐるのか。

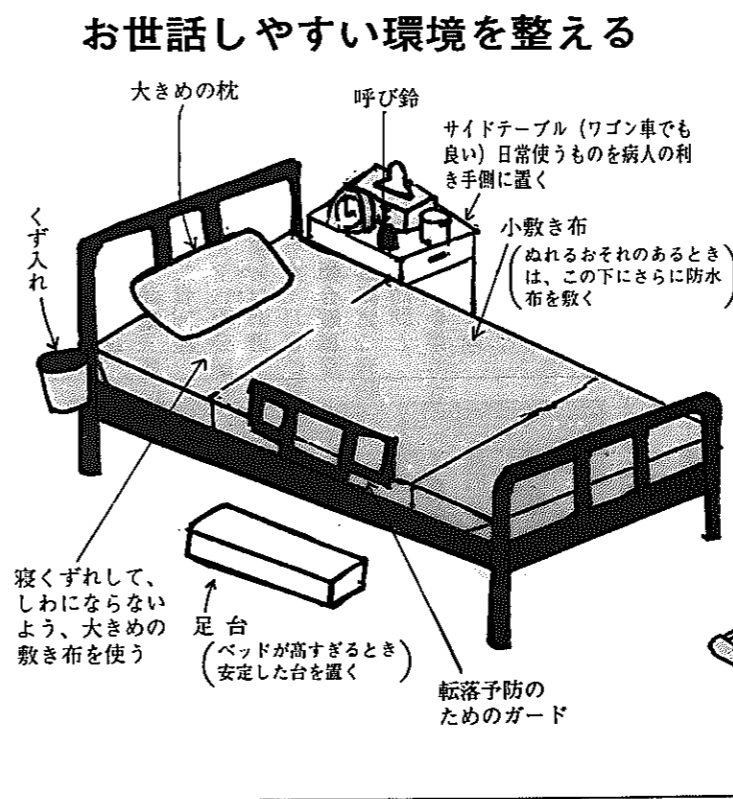
日赤 家庭看護法

老いを看護する

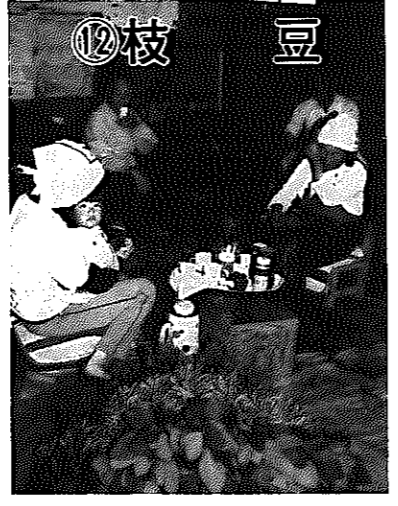
No. 11
看護用品のいろいろ①

日本赤十字社新潟県支部
佐々木 成子

今月からお世話するときに役に立つ看護用品を、いくつか紹介します。市販されているものもありますが、ちょっとした工夫で簡単にできるものばかりです。



しろねの農産物



ビールのおいしい季節になりましたが、ビールのつまみといえはなんといっても枝豆ですね。今回はその枝豆についてレポートします。まず枝豆の消費量ですが、これは新潟県が全国で第一位のようです。考えてみれば、ゆでた枝豆を大ざるにかけて、そのまま食べるのは「新潟県ならでは」なのかもしれません。県内の枝豆の三大産地が、弥彦、黒埼、白根です。白根では、昭和三十年ころから生産されて

いきましたが、生産量が増加し、栽培体制や出荷組合が整備されたのは五十年代に入ってからです。これは、転作作物として枝豆が脚光を浴び、栽培農家が増えたためです。
現在の消費志向ですが、大ざやで色が濃く味のよいものが好まれています。そのため、生産農家は有機質肥料を使用するなど、ほんもの志向に対応。
さて、今晚もおいしい白根産枝豆でビールといきますか。

生産者の声



中山 弘さん
(菱潟新田・52歳)

何十年も枝豆を作っています。「よくできたなあ」と思つたことはないです。温度の変化に敏感でもデリケートですから、価格も高かったり安かったり、いわば「ばくち」みたいなものでもしう作物です。